

## 加古川市立志方中学校 令和5年度 学校自己評価

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない

	質問項目	評価	学校としての対応策
学習指導	1. 主体的・対話的で深い学びの視点での授業力向上の取組について	A	・研修や研究授業を実施したり、他の先生の授業を見学したりする。 ・普段の授業でも協同的探究学習を実践していく。
	2. 個性や能力に応じたきめ細かな指導	A	・学年ごとではなく、学校全体で生徒に向き合う風土をつくる。 ・生徒の進路や将来のことをより考えて指導にあたる。
	3. 兵庫型学習システムや複数指導などの有効性	A	・とても良い指導方法だが、本校は教員数が少ないため、複数指導体制が組みにくいところがある。
	4. 基本的な学習態度、学ぶ姿勢の育成	A	・学習規律の統一化をすすめる。 ・伝統を大事にしながらも変革もしていけるような体制をつくる。
道徳教育・人権教育	5. 「道徳の時間」の指導法の研修・工夫	A	・限られた時間の中でも、学年全体で指導案の検討や会議を継続していく。
	6. 差別解消の課題を明確にした計画的、系統的な指導の実践	A	・人権学習の授業計画を立てて、しっかりと話し合いができる環境をつくる。 ・研修を行うなど教職員が人権意識をより一層高めていく。
	7. いじめや不合理的を許さない心の育成	A	・教員自身の人間性の向上のために、研修を行い、また、学年をこえて情報交換を密にしていく。 ・お互いを認め合える学年や学級を作るため、学活や総合的な学習の時間を有効に活用する。
体育・食育・防災教育	8. 体の育成への援助・工夫	A	・部活動をはじめとして、体力の向上につながる場面を積極的に設ける。
	9. 食育に関する指導の充実	A	・学活や総合的な学習の時間に食育指導の時間を設ける。 ・食事の重要性を理解し、食べ物を大事にする感謝の気持ちを忘れず、給食などの食品ロスを減らせるように指導に努める。
	10. 防災教育への指導	A	・教員も研修や震災学習を行うなどし、生徒に災害を自分事として捉えさせ、日常的な備えや命を守る方法が身につけられるように指導にあたる。
生徒指導	11. 内面的理解を基盤に、心にひびく指導と教育相談の充実	A	・教員の言葉かけや傾聴の姿勢を大切にす。 ・生徒に寄り添った生徒指導体制のさらなる充実をはかる。
	12. 学校生活適応推進事業(アセス)の活用	A	・普段の生活や生徒指導に活かせるように、アセスについての研修をより充実させる。
	13. 通学指導などの安全教育の推進	A	・安全(交通事故など)に関する意識を高め、交通指導や安全教室などを実施する。
	14. 挨拶など地域ぐるみで取り組む健全な生徒の育成	A	・地域との交流の機会を増やす。 ・行事や研修などを一緒にできる体制をつくる。
生徒会	15. 生徒会活動の活性化	A	・生徒の意見を活かした新しい取り組みができる環境をつくる。
研究と修養	16. 信頼される教職員をめざし、研修に努めている	A	・外部機関の研修に積極的に参加し、資質の向上に努める。
	17. 勤務時間の適正化・業務改善を推進し、一人一人の生徒に向き合う環境作り	B	・業務軽減ができるように、校務DXをすすめる。 ・教師間の情報交換や連携をより密にし、よりスムーズな学校運営に努める。
特別支援教育	18. 合理的配慮に基づいた指導法の工夫	A	・さらなる生徒理解や支援体制、配慮をすすめる。
キャリア教育	19. キャリア教育の推進	A	・キャリアパスポートやキャリアアノートの活用をより一層充実させる。
地域との関わり	20. 学校運営協議会を中心とした家庭・地域との連携	A	・スクリーンやホームページを活用し、さらなる情報発信を行い、協働体制づくりを促進させる。
			・学校運営協議会との連携を促進し、地域ぐるみでの学校運営体制を拡充していく。